

黒毛和種繁殖牛におけるドングリ中毒の集団発生

柿原 新^{1)†} 鳴重寿人¹⁾ 佐野裕規¹⁾ 田代久宗¹⁾ 大谷研文¹⁾
柳澤郁成¹⁾ 渡邊雅治²⁾ 山中典子³⁾



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/3/76_e45_/article-char/ja

- 1) 山口県中部家畜保健衛生所 (〒754-0897 山口市嘉川 671-5)
- 2) 山口県農林総合技術センター (〒753-0001 山口市宮野上 1768-1)
- 3) 国研農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 (〒305-0856 つくば市観音台 3-1-5)

(2022年7月14日受付・2022年11月21日受理・2023年3月29日公開)

要 約

2019年10月、肉用牛飼養施設において、黒毛和種繁殖雌牛10頭が元気消失、食欲低下及び下痢等の症状を呈し、その後約3週間で9頭が死亡した。血清生化学検査でBUNとCreが高度に上昇、腎臓の病理組織学的検査を実施した5頭全頭で急性尿細管壊死が認められた。放牧場の糞便及び死亡牛の第一胃内容物中からクヌギのドングリの果皮が見つかった。比色法により定量したところ、クヌギドングリには6.08% (乾燥重量%)と高濃度の総ポリフェノールが含まれていた。また、第一胃内容物の検査を実施した死亡牛全4頭からもポリフェノールが検出された。以上の結果から、本事例をドングリ中毒の集団発生と診断した。牧草の少ない時期に、大型台風により大量のドングリが放牧地に落下しており、放牧牛が短期間に大量に摂取したことが、発生要因と推測された。

——キーワード：ドングリ中毒，牛，ポリフェノール。

-----日獣会誌 76, e45～e50 (2023)